

平成30年度 東北地区における実務実習先行導入（トライアル）の実施方法について

【1】 目的

改訂コア・カリキュラム実務実習のスムーズな導入ならびに運用上の最終的な問題点の抽出。

【2】 概要

平成30年度の実務実習と並行して、改定コアカリ版概略評価表を用いた評価を行う。実習終了後は結果（Excel表）を調査実施窓口に返信し、各大学で結果を解析し、まとめたものを各実習施設にフィードバックする。

【3】 方法

- a. 対象： 東北地区の薬系6大学の学生の実務実習受け入れ施設全て
- b. 範囲： 平成30年度の実習期間中に、少なくとも1期（1回）は実施
- c. 実施方法
 - ① 評価回数は、概略評価の各項目について少なくとも3回とする
 - ② 評価時期は、第4週、第8週、最終週の3回を基本とする。ただし追加で評価回数を増やしても良い。
- d. 評価項目

大項目の(1)～(3)について各々1項目以上選択すること（(1)②臨床の心得は必須）。

実務実習評価項目（表1）のうち概略評価（いわゆるループリック）に該当する10項目（表中★が付いたもの）の中から大項目毎にそれぞれ1項目以上について評価する。

その際、評価基準 別添 PDF ファイル「改定コア・カリキュラム薬学臨床（F領域）のSB0s および実務実習概略評価表」を用いて評価する。

 - 薬局実習は、「日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示【緑表】」を使用（上段）
 - 病院実習は、「日病薬評価基準を参照した病院実務実習例示【赤表】」を使用（下段）
- e. 評価結果について
 - ① 評価結果は、別添のエクセル表「改訂コアカリ実務実習トライアル結果（〇〇〇〇）」に入力してください。
 - ② 実習終了後、このエクセル表を所定の窓口にE-mailで送って下さい。その際、ファイル名（〇〇〇）のところに御施設名を記入して下さい。
- f. 学生へのフィードバックについて

表2に評価基準の目安を示してあります。薬局、病院11週間の実習でそれぞれの第3段階を目指してご指導をお願いします。実習期間中に第3段階に到達した学生には、さらにその上を目指すご指導をお願いします。

表1 実務実習評価項目

大項目	中項目	評価法
(1) 薬学臨床の基礎	①（早期臨床体験） ②臨床の心構え★ ③（臨床実習の基礎）	左列で、★はループリックがある項目。 （ ）内の項目は単独のループリックは無く、他の項目に含まれる。
(2) 処方箋に基づく調剤	①（法令規則等の理解と遵守） ②処方監査と疑義照会★ ③処方せんに基づく医薬品の調製 ★ ④患者・来局者対応、情報提供・教育★ ⑤医薬品の供給と管理★ ⑥安全管理★ <病院は⑥安全管理/⑦感染管理>	
(3) 薬物療法の実践	①患者情報の把握★ ②医薬品情報の収集と評価・活用★ ③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）★ ④処方設計と薬物療法の実践（効果と副作用の評価）★	

表2 東北調整機構実務実習の評価基準の目安

	第4段階	第3段階	第2段階	第1段階
基準	薬剤師の目指すべき使命を実現できる段階。 薬剤師になってからの将来的な目標	薬剤師として医療現場で働くことができる基礎を身に付けた段階。 実習中に到達を目指す基本。	実習開始から8週間程度かけて到達するライン。	大学での学習を確認し、医療現場で指導薬剤師の指導の下、実際に患者に対応ができる段階。 実習開始から4週間程度かけて到達するライン。

東北地区における実務実習先行導入(トライアル) 概略評価記入表

学生名		大学名	
-----	--	-----	--

施設名		病院・薬局
評価者		

評価項目		評価点 (0~4)を入力											
		評価日	(1週)	(2週)	(3週)	第1回 (4週)	(5週)	(6週)	(7週)	第2回 (8週)	(9週)	(10週)	第3回 (11週)
大項目	観点												
(1) 薬学臨床の基礎	②生命の尊厳と薬剤師の社会的使命及び社会的責任												
(2) 処方せんに基づく調剤	②処方監査と疑義照会★												
	③処方せんに基づく医薬品の調製 ★												
	④患者・薬局者対応、情報提供・教育★												
	⑤医薬品の供給と管理★												
	⑥安全管理★												
(3) 薬物療法の実践	①患者情報の把握★												
	②医薬品情報の収集と評価・活用★												
	③薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決★												
	④薬物療法の効果と副作用モニタリング★												

フリーコメント	